

調査概要

- 対象 20～54歳の県民(回答数1,060人)
- 調査期間 令和5年2月3日(金)～2月10日(金)
- 調査方法 Webアンケート調査(全24問)

実施の背景

総務省の国勢調査において、1985年から2015年にかけて、本県における30～40代女性の未婚人口が総人口の動きに反して大幅に増加していたことが明らかとなった。未婚人口増加の要因を探るため、県民を対象としたアンケート調査を実施した。

アンケート結果におけるポイント

未婚者の状況

1. 既婚者・未婚者の割合

- 全回答者のうち、調査時点で「結婚している」者は56.8%、「結婚していない」者は43.2%
- 男性は39歳以下において、女性は29歳以下において「結婚していない」者の割合がすべて半数以上を占めた(図表1参照)。

2. 就業形態や平均年収と既婚/未婚との関係

- 男性は、正社員・正規職員の場合は既婚者の割合の方が大きく、契約社員や派遣社員、自営業等、**正社員・正規職員以外の場合はすべて未婚者の割合の方が大きかった**(図表2参照)。
- 男女別・既婚/未婚別の平均年収は下表のとおり。

			該当数	平均値
SQ1(性別)× SQ4(既婚/未婚)	男性	既婚	246	519.93
		未婚	204	297.72
	女性	既婚	352	135.03
		未婚	246	195.63

- 特に、男性においては既婚/未婚で200万円以上の差が生じていた。

3. 「結婚していない」理由

- 結婚していない理由は、**男女ともに「適当な相手に巡り会わない」が最多**
- 男性は「結婚資金が足りない」、女性は「自由な時間や気楽さを失いたくない」がそれぞれ2番目に多かった(図表3参照)。
- 全国を対象とした類似調査※と比較すると、30代における「結婚資金が足りない」「結婚後の生活資金が足りない」が5ポイント以上今回調査が上回った(図表4参照)。
※PwCJapanグループ「結婚観・家族観に関するアンケート」2020.4月実施

4. 結婚に対する希望の有無

- 未婚者全体の結婚に対する希望は「もともと結婚するつもりがない」が最多。年齢別にみると、**30代前半までは将来的に結婚したいと考える者がそうでない者を上回った。**
- 就業形態別にみると、**学生と正社員・正規職員以外は結婚を希望しない者の割合が半数以上を占めた。**
- 男女別・年収別にみると、男性は年収が上がるにつれて結婚を希望する者の割合が比較的大きくなっていくが、女性は年収が上がるにつれて結婚を希望しない者の割合が比較的大きくなっていった(図表5参照)。



予定する子どもの数と理想的な子どもの数の差

- 全回答者における「**予定する子どもの数**」は「0人(36.6%)」の割合が最も多く、「**理想的な子どもの数**」は「2人(39.9%)」が最も多かった。
- 既婚者のみの「**予定する子どもの数**」と「**理想的な子どもの数**」の平均値は下表のとおり。

	類似調査	今回調査
予定する子どもの数	2.01	1.68
理想的な子どもの数	2.25	2.07



- 全国を対象とした類似調査※と比較すると、予定数も理想数も今回調査の方が下回った。
※社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」2021.6月実施
- 予定数が理想数を下回っている理由として、既婚・未婚ともに最も多かったのは「子育てや教育にお金がかかりすぎる(と思う)から」、次いで「高年齢で生むのは嫌だから」であった(図表6参照)。

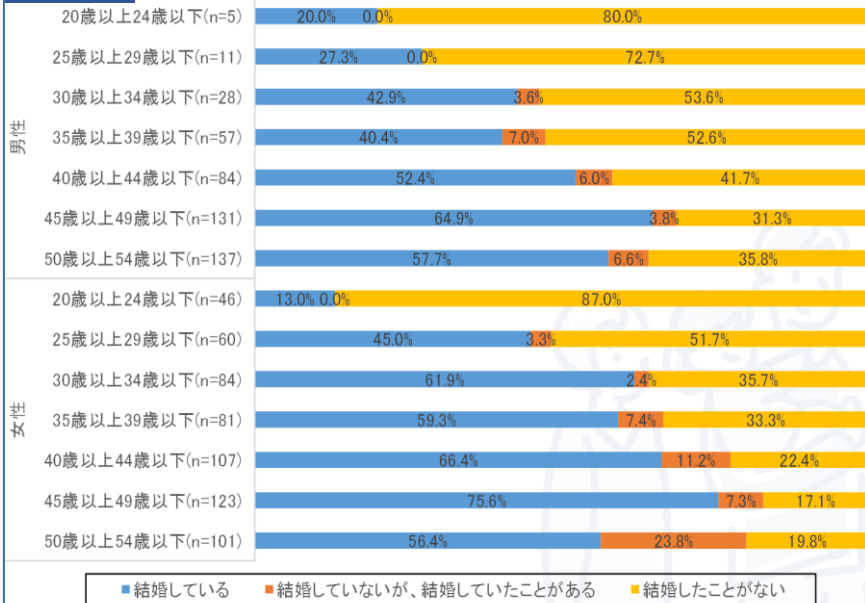
婚外子に対する意識

- 未婚者に対して婚外子についての考え方を尋ねたところ、「自分自身が結婚せずに子どもを持ちたい」「結婚をせずに子どもを持つことも、自身にとって選択肢の一つである」と答えた者が3割以上であった。
- 「自分自身は考えていないが、自分以外(兄弟姉妹を含む)がそうしても良い」と答えた者を含めると、**婚外子に対して肯定的な考え方を持つ者が6割以上を占めた**(図表7参照)。



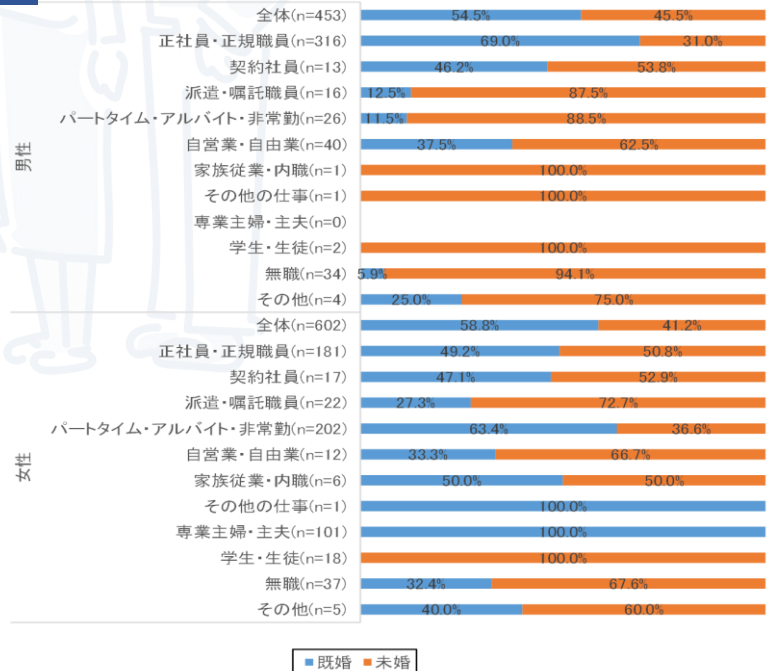
図表 1

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

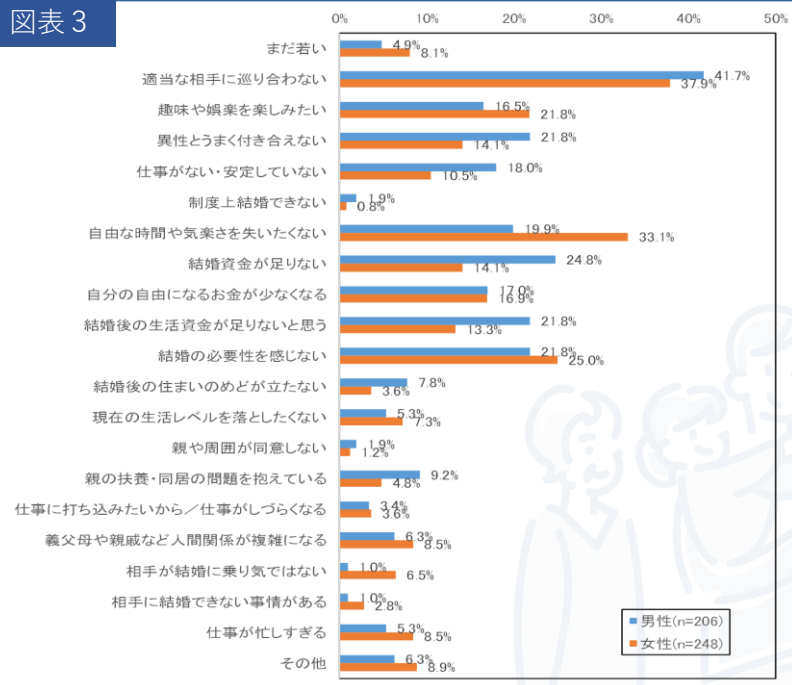


図表 2

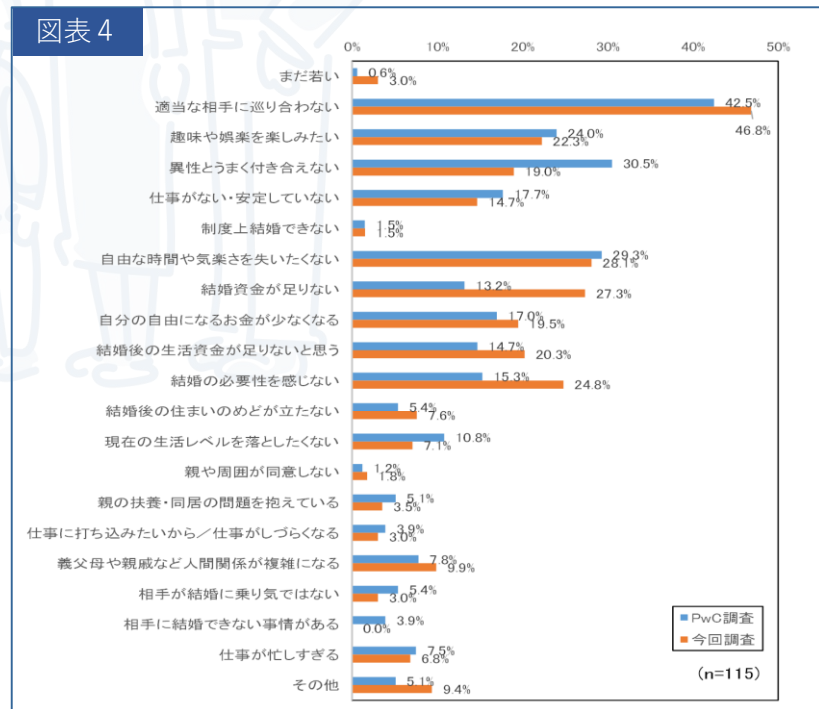
0% 20% 40% 60% 80% 100%



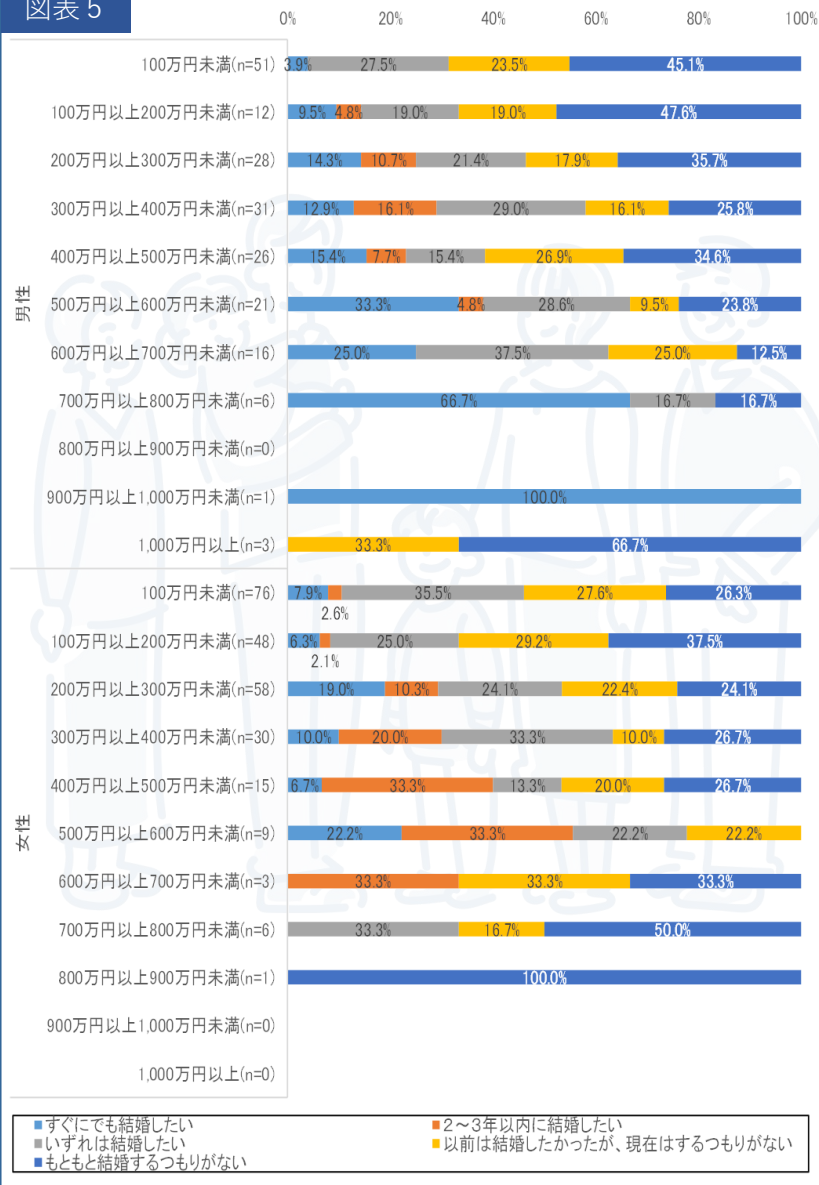
図表 3



図表 4

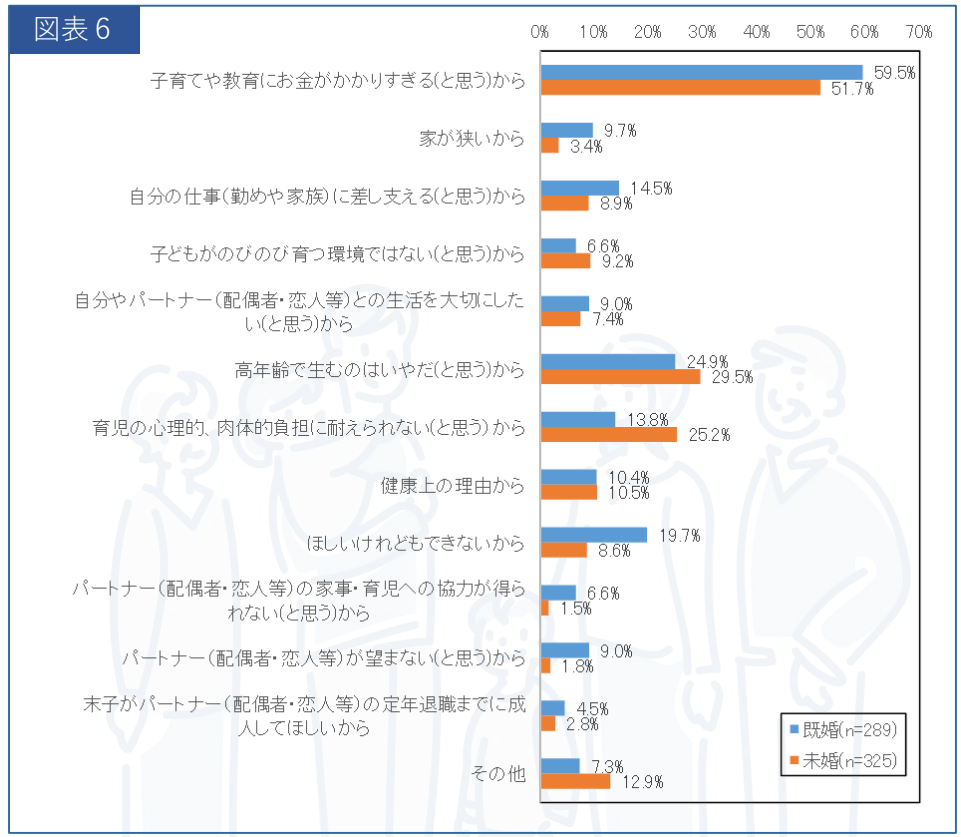


図表 5



■ すぐにでも結婚したい
■ 2~3年以内に結婚したい
■ いずれは結婚したい
■ 以前は結婚したが、現在はするつもりがない
■ もともと結婚するつもりがない

図表 6



図表 7

